

学校法人 滋慶学園 東京スクールオブミュージック専門学校渋谷 学校関係者評価委員会

【令和5年4月2日実施】

令和4年度自己点検自己評価(令和4年4月1日～令和5年3月31日)による

大項目	点検・評価項目	自己評価	点検・評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評価委員会からのご意見
		適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1			適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1
1 教育理念・目的・育成人材像	1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか	4	学校法人滋慶学園 東京スクールオブミュージック専門学校渋谷(TSM渋谷)は、学校法人滋慶学園グループ(※1)に属し、「職業人教育を通じて社会に貢献していく」ことをミッション(使命)としている。	(※1)「学校法人滋慶学園グループ」昭和51年の創立以来、「職業人教育を通じて社会に貢献すること」をミッションに掲げ、全国に専門学校・教育機関を設置し、業界で即戦力となる人材育成のため、建学時から変わらない「3つの理念」(実学教育、人間教育、国際教育)と「4つの信頼」(業界からの信頼、高校の先生からの信頼、学生・保護者からの信頼、地域からの信頼)を実現することで、理想の教育実現を目指す。	【評価点：4】 ・日本だけではなく、世界を目指してほしい(菅野氏)
	1-2 学校の特色は何か		「3つの建学の理念」(「実学教育」(※2)「人間教育」(※3)「国際教育」(※4))を實踐し、「4つの信頼」(①学生・保護者からの信頼 ②高等学校からの信頼 ③業界からの信頼 ④地域からの信頼)を得られるように学校運営をしている。	医療・福祉・美容・調理・製菓・バイオ・スポーツ・クリエイティブ・エコ・音楽・ダンス等、多岐にわたる分野で北海道から福岡まで約80校を有する。	・コロナ以降、仕事内容が変化しています。それに対して変化対応していくべきかと思えます。(西川) ・国際教育は大切なため、引き続き頑張っていたください。(池田)
	1-3 学校の将来構想を抱えているか		建学の理念に基づき、東京スクールオブミュージック専門学校渋谷は、『音楽&エンタテインメントを通して、人に喜びや感動を与えられる「即戦力」の人材として就職&デビューする』ことを目的に学校運営をしている。	(※2)「実学教育」 スペシャリストが求められる時代に即し、業界に直結した専門学校として、即戦力となる知識技術を教授する。一人ひとりの個性を活かし、それぞれの業界で力が発揮できるように構築された「滋慶学園グループ独自の教育システム」。	・多くの人材を輩出されている貴校はエンタメ業界の発展に寄与されていると思えます。満足度100%は高い目標ですが、実現するべく引き続き運営をお願いします。(明地)
2 学校運営	2-4 運営方針は定められているか	4	現在、音楽&エンタテインメント業界を取り巻く社会の環境は大きく変化している。職業の現場で求められる知識・技術の高度化や、より付加価値の高い人材の必要性を背景に、本校では、2年制課程のみならず、3年制課程、4年制課程も設置し、また、『産学連携教育システム』により、様々な変化にも対応できる人材の育成を実現してきた。	(※3)「人間教育」 開校以来、『今日も笑顔で挨拶を』を標語に掲げ、他人への思いやりの気持ちやコミュニケーション能力、リーダーシップがとれる対人スキル等を身につけ、同時にプロ・社会人としての身構え、心構え・気構えを養成する。	・適切である、更なる向上を目指していただく。(平野)
	2-5 事業計画は定められているか		諸環境の変化に対応できるように、事業計画については、滋慶学園グループが毎年、長期・中期・短期展望をし、事業計画を作成している。	(※4)「国際教育」 コミュニケーション言語としての英語を身につけるだけでなく、日本人としてのアイデンティティを確立した上で、広い視野でモノを捉える国際的感性を養う。	・コロナ渦で海外研修が実施できなかったのは残念。色々としていただきたと思うので、実現できずに残念な事が多かった2年でした。
	2-6 運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか		それを受けて、滋慶COMグループが短期事業計画を作成するが、そのもとになるのが、滋慶COMグループに属する各学校が作成する短期事業計画であり、毎年作成しているこの事業計画書が各学校における運営の核となるものである。	学校全体における事業計画書は、広報・教務・就職と、学校におけるすべての部署について考えられ、また、すべての部署が同じ方針・考え方を理解し、徹底している。	・時代の流れが早いスピードなので3ヵ年計画でもよいかも思いません。(池田)
	2-7 人事や資金での処遇に関する制度は整備されているか		事業計画は、法人常務理事会、法人理事会の決議を受け、承認を得ることになっている。	学校全体の運営、あるいは各部署の運営が正しく行われるために、様々な研修や会議が設けられ、この研修、会議を通じて、個人個人の目標設定及び業務への落とし込みを行い、また常に方向性、位置づけ等を確認できるシステムを構築している。	・しっかりとしたシステム作りがされていて素晴らしいと思います。(西川)
	2-8 意思決定システムは確立されているか		それを受け、各学校では毎年3月に事業計画を全教職員へ周知徹底するための研修も行っている。	さらに、学校全体として、各学科における「3つのポリシー(アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー)」掲げ、全職員と共有が出来ている。	・事業計画のPDCAを実行されているということで問題ない運営かと思えます。組織に横串を刺した運営をお願いします。(明地)
	2-9 情報システム化等による業務の効率化が図られているか		事業計画においては、グループ全体の方針や方向性、組織、各部署における目標や取り組み、職務分掌、各種会議及び研修等々についてが明確に示されている。		・適切である。引き続き意見交換を図り、徹底をお願いします。(平野)

<p>3 教育活動</p>	<p>3-10 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか</p> <p>3-11 修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか</p> <p>3-12 カリキュラムは体系的に編成されているか</p> <p>3-13 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか</p> <p>3-14 キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか</p> <p>3-15 授業評価の実施・評価体制はあるか</p> <p>3-16 育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか</p> <p>3-16-17 教員の専門性を向上させる研修を行っているか</p> <p>3-17 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか</p> <p>3-18 資格取得の指導体制はあるか</p>	<p>3</p>	<p>職業教育は常に業界と密接な関連を持たなければ、教育目標、育成人材像は正しく方向づけられないと考えており、業界の人材行動を常にキャッチし、その変化に対応して養成目的や教育目標の見直しを毎年実施している。</p> <p>本校は教育システムとして、独自の「産学連携教育システム」を構築しており、このシステムにより、業界と乖離することなく、業界で即戦力となりうる人材を育成、輩出できている。教育目標達成のためのカリキュラムは、入学前から卒業まで、体系的に編成されているが、常に音楽/ダンス&アクター教育部会等で研究、見直し等を行っている。</p> <p>カリキュラムは学科(専攻)に関わるもののみならず、社会的・職業的自立を目指し、「キャリア教育」の視点に立ったものになっている。</p> <p>授業改善、教職員・講師の資質向上等を目的とし、授業評価を実施しているが、これを通して講師や学生の状況を正確に把握し、総合的な判断ができる要因となっている。</p> <p>成績評価・単位認定の基準を明確にし、学生指導を行っているが、明確な基準と共に、柔軟な対応ができる余地を残すことで、すべての学生が学科の目標を達成した上で、進級・卒業できる体制を作っている。</p> <p>資格取得については、業務を行う上で必要な資格、就職に有利な資格という範囲で取得に向け、支援を行っている。</p>	<p>開設以来、教職員の目標として、 1. 専門就職率 100% (就職者/専門分野就職者) 2. 退学率 0% (入学者は全員卒業してもらう) その達成のために構築した2つの重要なシステムを構築している。第1のシステムは入学前の自己発見→自己変革→自己確立という、自己3段階教育と、動機づけ・目的意識づけプログラムである。 入学前からの一貫した育成システムと目的意識をもって取り組むプログラムの組み合わせにより、モチベーション向上を果たしている。 第2のシステムは、即戦力としての実践的技術・知識、ビジネスマインド等を身につけるための教育システム「産学連携教育システム」である。</p> <p>これには、次の6つが挙げられる。 ①企業プロジェクト ②Wメジャー・カリキュラム ③業界研修 ④海外実学研修 ⑤特別ゼミ ⑥就職・デビュー事務局 である。</p> <p>また、教育システムのさらなる開発のため、滋慶COMグループの音楽系全校から構成する「パフォーミングアート教育部会」「ダンス&アクター教育部会」を設置し、システムの共有化、レベル向上化を図っている。</p> <p>主な研究内容は、①教育指導法・技法の開発 ②カリキュラム検討 ③生涯教育プログラム ④教職員研修 ⑤国際教育システム開発 ⑥イベント・卒業研究の運営 等である。</p>	<p>【評価点：3】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資格は必要な時代になってきたので、ぜひ合格者が増えることを望む。(菅野氏) ・資格取得に力を入れられると強みになると思います。もの作りの楽しさを教えてください。(池田) ・JAPLS技術認定試験やProTools認定試験に毎年多くの学生様にチャレンジしていただき向上心が高い学生様が多い印象を持っています。(明地) ・継続的な支援、改善構築が必要。(平野) 2年間という学業の中で、より実務経験を積み上げていく事が重要と考える。できるだけ様々な関係業界でのインターンなどの場の提供が必要。(寺田) ・即戦力人材を育成する具体的な学内プロジェクトを創生していくことを推進していく。(横山)
<p>4 教育成果</p>	<p>4-19 就職率(卒業生就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか</p> <p>4-20 資格取得率の向上が図られているか</p> <p>4-21 退学率の低減が図られているか</p> <p>4-22 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか</p>	<p>3</p>	<p>教育成果は目標達成の努力の結果であるが、本校では、専門就職率(就職者/専門分野就職者)100%、退学者0名を教育成果の最終目標に学校運営を行っている。</p> <p>就職では、高い就職率を維持しているが、専門就職率、就職対象率の向上も課題として取り組んでいる。</p> <p>退学率では、今後も学生個々の徹底したフォロー、カリキュラムの工夫、担任・副担任制度の強化、学生カウンセリングの強化等々を実施し、退学率0%達成に向け、努力を惜しむことはない。</p>	<p>教育成果の1つである就職は、年々、専門就職率が向上しているが、早期就職決定を目標に努力を続けている。</p> <p>また、できるだけ多くの学生に夢をかなえて就職するよう、就職対象率の向上も大きな課題である。</p> <p>学生が目標を達成できるように、保護者と三位一体となり、支援する体制作りを行っている。</p> <p>退学率では、転科・転専攻等の個別カウンセリングの強化、支援クラスの立ち上げなど、現状以上に体制を整え、1人でも退学者を出さない学校になるべく、最終目標である0%に向け、さらなる努力を重ねたい。</p>	<p>【評価点：4】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育に「芸術面」があって個人差がある為、成果に対する評価が難しい中、一人一人に丁寧に接しておられる点が素晴らしい。(西川) ・就職率は採用を行う企業側の成長によるところがあると思います。より多くの学生を採用できるような産業に我々が育てていく必要があります。(明地) ・卒業後も就職など色々なチャンスを受けられたり、学校とつながりを持って行けたらと思います。今後もお声がけいただけたら、嬉しいです。(金子) ・学生によっては2年の中で就職において目標が定められない部分はいない。就職100%、非正規ではなく正規での就職率を高めていくのが課題では。(寺田) デビューを最終アウトプット目標にする時代は過ぎていて、ネット時代における将来ビジョンの明確な指針を教育。(横山) ・退学者0を目指していますが途中で合わなくて辞める方がいるのは仕方がないと思います。(菅野氏)

5 学生支援	5-23 就職に関する体制は整備されているか	4	本校では、学生が目標を達成できるように、物心両面の環境を整備していくことで支援に繋がるかと考える。 しかし、支援はあくまでも支援である。 例えば、健康の維持は学業目標達成には欠かせない事項であり、本校でも健康診断にとどまらず、多くの支援体制を築き上げているが、学生本人が健康管理についての自覚を持たない場合、支援は効果がない。 それゆえ、学生支援はまず学生の自立的行動を促すことから始めている。	滋慶学園グループでは、「一人ひとりを大切に」「学生はゲスト」というコンセプトがあるが、本校でもこのコンセプト通り、学生を第一に考え、様々な支援体制を整備している。	【評価点：3】 ・滋慶学園としての環境が整えられているところは素晴らしい。健康管理については重要。サポート体制は他にはない取り組みだと思います。(寺田)
	5-24 学生相談に関する体制は整備されているか		その中でも、「就職」は学生が目標を達成し、業界で活躍するための最重要事項であり、本校では非常に力を入れており、キャリアセンターという専門部署を置き、専任のスタッフを配置している。	・多方面から手厚いサポート体制が整っているように見受けられました。今の若い世代は非常に多様化しているので100%満足する体制の構築は難しいように思いますがチャレンジしている姿勢に好感が持てます。(明地)	
	5-25 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか		学生支援には、①就職 ②学費 ③学生生活 ④健康 などの分野で行っているが、それぞれの分野で対応できる担当部署及び担当者を置いている。	キャリアセンターは、業界現場での実践研修である「業界研修」の指導から、個別相談、就職対策講座、就職支援イベント開催、就職斡旋等々、就職に関するあらゆる支援を行っている。	・メンタルケアの必要性が年々増えています。(池田)
	5-26 学生の健康管理を担う組織体制はあるか		①就職については、専門部署であるキャリアセンターを設置し、担任との強い連携をとりながら、就職の相談、斡旋、面接他各種指導などの支援をしている。	また、求人情報等を学生が自宅のパソコンでも閲覧できる就職支援システム「サクセスナビ」、一斉メールなどシステムの構築をもし、迅速な対応ができるように支援している。このような支援体制の結果、高い就職率を誇っている。さらに卒業生に対しても転職の相談や、就職イベントへの参加斡旋等を通じて支援を怠らない。	・娘も産生会クリニックを利用させていただきました。ありがとうございました。(金子)
	5-27 課外活動に対する支援体制は整備されているか		②学費については、相談窓口として事務局会計課を置き、提供できる学費面でのサービスをアドバイザーするファイナンシャルアドバイザーにより支援している。	「就職」と並ぶ重要項目である、「教育」については、教育環境を整備し、成果を上げている。即戦力の人材を育成するための施設・設備、機材等々を完備し、また業界ニーズとブレのないカリキュラムの構築、業界第一線で活躍する講師陣による授業など、オンリーワンを目指す学校として十二分な体制を確立している。	・学生とのコミュニケーションをとることは中々難しいと思いますが、先生の方から問いかけを増やしていったらいいかと思う。(菅野氏)
	5-28 学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか		③学生生活については、担任及び副担任制により行うが、それ以外にも滋慶トータルサポートセンターという悩みや相談を受ける専門部署を置き、支援している。	学生の経済的側面に対する支援としては、奨学金に関する専任スタッフを配置し、細やかな支援を実施している。また、精神的・肉体的に通常のクラスでは授業についていけない事情を抱えた学生のため、滋慶トータルサポートセンターと連携し、専任スタッフとともにサポートをしている。	
5-29 保護者と適切に連携しているか	④健康については、滋慶学園グループのクリニックである産生会クリニックが担当し、在学中の健康管理を支援している。また、学生の課外活動であるサークル・同好会について、学校が年間予算を計上し、担当者を配置して、支援し、学生満足度アップに貢献している。				
5-30 卒業生への支援体制はあるか					
6 教育環境	6-31 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3	本校は、業界で即戦力となり得る人材育成を目的としており、そのための教育環境(施設・設備、機材等)の整備は重要であるが、完備されていると考える。 校内の教育環境に留まらず、学外の環境(業界研修、学外演習、海外実学研修)も十二分に整備することが必要であるが、キャリアセンター、教務部、国際部が一丸となって、その整備を行い、教育効果につなげている。	オンリーワンを目指す本校にとって、教育環境である施設・設備・機材等は非常に重要な要素であり、それゆえ、どこにも負けない最新・最良のものを整備している。 毎年、事業計画で計画し、予算計上の上、計画通りに購入・更新等を行っているが、これ以外の学外教育環境も教務部、キャリアセンター、国際部が一丸となって整備しており、これは本校の大きな強みと考えている。	・デジタルファンデーション、ネーミングが面白いですね。セルフプロモーションは社会人になっても大切な要素ですので学生の間から下地ができていいのはとても良いと思います。(明地)
	6-32 学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか		・引き続き対応を考え、学生満足度を高めていただく。(平野)		
				・恵まれた環境下で、教育していただきたいと思います。(金子)	・一点の水準は満たされているのではないかと思います。技術専門系学校である事から、今後も最新の設備設置を期待しています。(寺田)
				ハード面は日進月歩で進んでいくと思うが、ソフト面での教育内容を充実させていきたいと思っています。(菅野氏)	

	6-33 防災に対する体制は整備されているか				
7 学生の募集と受け入れ	7-34 学生募集活動は、適正に行われているか	4	本校は、東京都専修学校各種学校連合会に加盟し、同会の定めたルールに基づいた募集開始時期、募集内容(AO入試等)も遵守している。 また過大な広告を一切廃し、必要な場合は根拠数字を記載するなど、適切な学校募集ができるように配慮している。 さらに、広告倫理委員会を設置し、広報活動の適切さをチェックしている。広報・告知に関しては、各種媒体、入学案内、説明会への参加やホームページを活用して、学校告知を実施し、教育内容等を正しく知ってもらうように努めている。これらすべての広報活動等において収集した個人情報・出願・新入生の個人情報等本校に関わるものの個人情報、校内に個人情報委員会を設置し、厳重に管理し、流出及び他目的に使用しないように、管理の徹底を図っている。 入学選考に関しては、出願受付及び選考日を学生募集要項に明示し、決められた日程に実施しているが、入学選考後は、「入学選考会議」により、可否を決定する。 なお、本校における入学選考は、学生募集要項にも明示している通り、「面接選考」及び「書類選考」であるが、その基準となるのは、「目的意識」である。 将来目指す業界への職業意識や具体的な目標がしっかりしているかを確認すると共に、その目的が本校より提供する教育プログラム及びカリキュラムにおいて実現可能かを確認するもので、入学試験という名称のもと、学科試験を行うものではない。学納金や預かり金、教材等の見直しを毎年行っており、学費及び諸経費の無駄な支出をチェックしている。 保護者への授業料及び諸経費の提示についても、入学前の段階において、年間必要額を学生募集要項に明記し、基本的に期中で追加徴収を行わない。	学生募集については、募集開始時期、募集内容等々ルールを遵守し、また、過大な広告を一切排除し、厳正な学生募集に配慮している。 広報活動では「学校の特色を理解してもらう」ことを強化している。本校は専門就職を果たしてもらうことを第一目標としているため、入学前に職業イメージをどれだけ明確になっているかが大切と考え、体験入学や説明会への複数回参加を促し、充分理解し、疑問を解消した上で出願してもらうことを心がけている。 教育成果として、高い専門就職実績と卒業生の活躍の打ち出しを強化しており、学生募集上の効果はかなり高いと考え、それゆえ、過大な広告にならないよう、学内に広告倫理委員会を設置し、事務局長、広報課長等が常にチェックしている。	【評価点：4】 ・過大な広告の排除とフェアな入試を引き続きお願いします。(明地) ・過大な広告を排除し、厳正な学生募集をされているところが良い。(西川) ・過大な広告を排除している所を評価。即戦力とスキルを重視した取り組みは好いと思われる。(寺田) ・オープンキャンパスで学園に訪れたのを思い出します。親切な対応がとてもよかったです。親切な対応でとてもよかったです。安心して学校選びが出来ました。HPもたくさん見れました。(金子) 広報活動で学校の良さをアピールしてほしい。(菅野氏)
	7-35 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか				
	7-36 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか				
	7-37 学納金は妥当なものとなっているか				
8 財務	8-38 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	財務は、学校運営に関して、重要な要素の1つである。 その中で予算(収支計画)は学校運営に不可欠なものであって、その予算を正確かつ実現可能なものとして作成する必要がある。 毎年、次年度事業計画を作成し、その事業計画の中に5ヶ年の収支予算を立てているが、次年度の収支予算はもちろんのこと、中長期的に予算を立てることによって、学校の財務基盤を安定させるための計画を事前に組んでおくのが目的である。5ヶ年の予算は、5ヶ年を見越した中長期的事業計画内で、新学科構想、設備支出等について計画し、将来の学生数、広報・就職計画を鑑みながら予測し、収支計画を作成するが、学校、学園本部、理事会・評議員会と複数の目でチェックするため、より現実的に即した予算編成となっており、健全な学校運営ができていと考えている。 会計監査は、法人及び学校の利害関係者に対して、法人等の正確かつ信頼できる情報を提供するために、第三者による監査人が法人とは独立し計算書類が適切かどうかを監査することを意味する。 平成17年4月から私立学校法が改正され、学校法人の財務情報公開が義務づけられたが、これに迅速に取り組み、「財務情報公開規程」及び情報公開マニュアルを作成し、現在に至っているが、財務情報公開の体制は整った。	予算を正確かつ実現可能なものにするための2つの要素がある。 ①正確かつ実現可能な予算の作成予算は短期的、中長期的の2種類がある。短期的は次期1期間のもの、中長期的は2～5年間のものである。 当学校法人及び学校では、短期的と中長期的の両方を事業計画書として作成し、短期的視野と中長期的視野の2つの観点から予算編成している。短期的な予算編成は当年度の実績を基礎に次年度に予定している業務計画を加味して行われる。 中長期的な予算編成は主として大規模な計画を視野に入れた上で、業界の情勢を読み取りながら行われる。 正確かつ実現可能な予算作成のためには、一旦作成した予算が現実のものとならなければそれを修正する必要がある。そのために短期的な予算においては期中に「修正予算」を組み、中長期的な予算においては毎年編成しなおすこととしている。 これにより、短期的にも中長期的にも正確かつ実現可能な予算編成を組むことができる。 ②①のための体制作り ①のように実現可能な予算作成するためには、その体制作りが必要になる。 事業計画・予算は学校責任者が協議して作成し、遊慶学園本部がチェックし、修正して最終的に理事会・評議員会が承認する体制を整えている。さらに、予算に基づいて学校運営がなされているかどうかは四半期ごとに予算実績対比を出し、学校責任者と学園本部が協議し予算と実績が乖離しているようであれば修正予算を編成し、理事会・評議員会の承認を得る。作成した決算書・事業報告書については、情報公開の対象となり、利害関係者の閲覧に供することとなる。	【評価点：4】 ・素晴らしいと思います。(西川) ・財務の判断はつきませんが記載されている情報から判断すると問題ないと思います。(明地) ・適切だと思います。(寺田) 財務の情報公開は今後も続けてほしい。(菅野氏)
	8-39 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか				
	8-40 財務について会計監査が適正に行われているか				
	8-41 財務情報公開の体制整備はできているか				

<p>9 法令等の遵守</p>	<p>9-42 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか</p> <p>9-43 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか</p> <p>9-44 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか</p> <p>9-45 自己点検・自己評価結果を公開しているか</p>	<p>4</p>	<p>法令を遵守するという考えは、滋慶学園グループ全体の方針として掲げ、各校の教職員全員でその方針を理解し、実行に努めている。 法人理事会のもとに、コンプライアンス委員会で学校運営が適切かどうかを判断している。 現状では、学校運営(学科運営)が適切かどうかは次ぎの各調査等においてチェックできるようにしている。 ①学校法人調査 ②自己点検・自己評価 ③学校基礎調査④専修学校各種学校調査 等である。 また、組織体制強化やシステム構築にも努め、次のようなものがある。 (A)組織体制 ①財務情報公開体制(学校法人) ②個人情報管理体制(滋慶学園グループ) ③広吉倫理委員会(滋慶学園グループ) ④進路変更委員会(滋慶学園グループ) (B)システム(管理システム) ①個人情報管理システム(滋慶学園グループ) ②建物安全管理システム(滋慶学園グループ) ③防災管理システム(滋慶学園グループ) ④部品購入棚卸システム(滋慶学園グループ) ⑤コンピュータ管理システム(COMグループ) 滋慶学園グループ、COMグループと全体というスケールメリットを活かし、各委員会、体制、システムにより、各校が常に健在な学校(学科)運営ができるようになっている。 法令や設置基準の遵守に対する方針は明文化し、法令や設置基準の遵守に対応する体制作りは完全に整備できている。</p>	<p>3つ教育「実学教育」、「人間教育」、「国際教育」で「職業教育を通じて社会に貢献する」という建学の理念の実現を目指し、4つの信頼(①学生・保護者の信頼②高校からの信頼 ③業界の信頼 ④地域の信頼)を確保するためにもコンプライアンス推進をはかる。 具体的には、すべての法令を遵守するとともに、社会規範を尊重し、高い倫理観に基づき、社会人としての良識に従い、行動することが私たちの重要な社会的使命と認識し、実践する。方針実行のため、学内にコンプライアンス委員会を設置し、コンプライアンスを確実に実践・推進に当たらせることにした。 委員長は、統括責任者としての学校の役員が就任する。委員は学校の現場責任者である事務局長と実務責任者の教務部長で構成される。 主な任務は、行動規範・コンプライアンス規程の作成、コンプライアンスに関する教育・研修の実施、コンプライアンス抵触事案への対応及び再発の予防策の検討・実施、コンプライアンスの周知徹底のためのPR、啓蒙文書等の作成・配布である。 監事による毎年の監査に際して、業務監査の対象として、コンプライアンスの実施状況についても監査してもらっている。今後は、コンプライアンス相談窓口の設置が必須であると考ええる。</p>	<p>【評価点：4】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループならではの取り組みだと思います。チェックが大切さを継続してください。(西川) ・自浄作用が機能する組織づくりを引き続きお願いします。(明地) ・適切である。引き続きコンプライアンスの周知、徹底遵守をお願いします。(平野) ・チェックを続けてください。グループとしての運営期待します。(菅野氏)
<p>10 社会貢献・地域貢献</p>	<p>10-46 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか</p> <p>10-47 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか</p>	<p>4</p>	<p>本校には、滋慶学園グループの「4つの信頼」(①学生・保護者の信頼②高校からの信頼 ③業界の信頼 ④地域の信頼)というコンセプトがある。この「4つの信頼」の獲得を目指すことが社会貢献に繋がると考えている。企業プロジェクトへの参加や卒業生の活躍による「業界の信頼」。業界企業や団体、あるいは小学校等の教育機関とタイアップして行う市民イベント、あるいは地域の方々と共同で行うイベントが「地域の信頼」に繋がっている。 また、スタッフが高校へ向向いて行う特別講義等では、「高校の先生の信頼」に繋がっている。 滋慶学園グループが推進する「地球温暖化防止対策」運動で行っている、節電、冷房温度28度設定、階段利用(2アップ3ダウン)や、イベント等におけるゴミ削減、資源有効利用等々は、学生本人のみならず、来校された保護者の方々からも高い評価を頂戴し、「学生・保護者の信頼」に繋がっている。 特別なことをするわけではなく、滋慶学園グループが掲げる「4つの信頼」の獲得を目指すことが、すなわち社会貢献を果たすことに繋がっていると考えている。</p>	<p>エンターテインメントを学ぶ本校では、教職員及び学生たちが、常に社会貢献を意識した活動を年間通して行っている。教職員や各専攻の学生たちが、それぞれ特徴を活かし、幅広く、かつ意義のある活動を行っている。その活動が①学生・保護者の信頼②高校からの信頼 ③業界の信頼 ④地域の信頼という、滋慶学園グループの「4つの信頼」獲得に繋がりが、その結果が社会貢献を果たすことに繋がっている。 今後は、学校の施設や教育ノウハウ等を更に活かし、多様な社会貢献へ発展させていく考えである。</p>	<p>【評価点：4】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校としての行事が街や住民へもとと伝わるように期待しています。(寺田) ・SDGsや地域貢献、社会貢献に対する取り組みを積極的にされていて良いと思う。(西川) ・学園祭を継続されているのは素晴らしいと思います。(池田) ・私共商会在年2回ほど宮益坂で花植えを行っているが、学生さんが参加して下さって町を綺麗にいただいています。非常にありがたいことで大変感謝しております。(菅野氏)